

ウグイの飼料転換効率と適正放養時期

福島県内水面水産試験場 生産技術部

1 部門名

水産業－内水面（増養殖）－内水面養殖業

2 担当者名

遠藤雅宗・坂本 啓・渡邊昌人

3 要旨

昭和58年から放流用ウグイ種苗を量産し、種苗分譲を行うとともに、種苗生産技術を民間業者に移行するために必要なデータを蓄積してきた。飼料転換効率を明らかにし、目標生産量に対する必要な給餌量を把握するために、昭和58～令和4年度の生産データを整理したところ、ウグイの生産重量は給餌量の $52.3 \pm 1.6\%$ （標準誤差）であることが明らかになった。また、5月下旬～7月上旬が外池に仔魚を放養する時期として適正だと考えられ、7月上旬までに放養をした場合、10月中旬に3gサイズのウグイを生産することができると考えられた。

(1) 給餌量と生産量の間には有意な正の相関が得られ、給餌量の $52.3 \pm 1.6\%$ 重量のウグイを生産できることが明らかになった（図1）。

(2) 明らかに生残率が低い7月中旬を除く5月下旬～7月上旬が適正放養時期と考えられた（図2）。

(3) 3gサイズのウグイを生産するまでに要した日数は平均 113 ± 1.3 日であった。

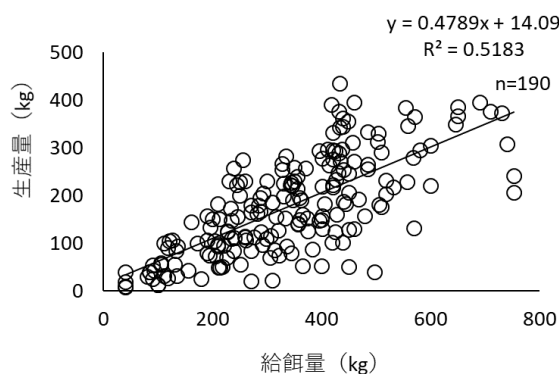


図1 池ごとの給餌量に対する生産量

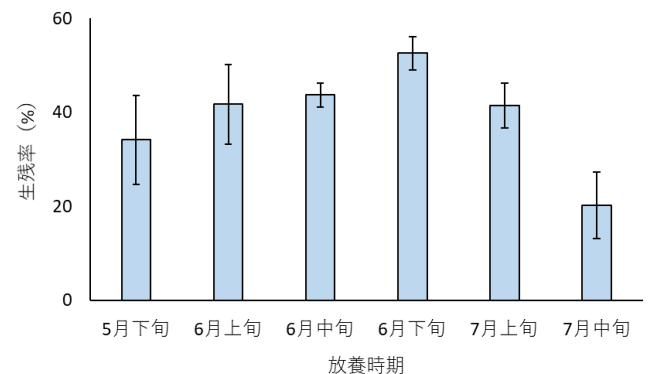


図2 放養時期ごとの生残率

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 昭和58～令和4年度
- (2) 研究課題名 淡水魚種苗企業化事業（ウグイ）

5 主な参考文献・資料

- (1) 昭和58、60～平成24年度福島県内水面水産試験場事業報告書
- (2) 平成25～令和3年度福島県内水面水産試験場事業概要報告書